

# Doctors File

ドクターズ・ファイル

vol.11160

## 日暮雅一院長

ほどがや脳神経外科クリニック(横浜市保土ヶ谷区/保土ヶ谷)



JR横須賀線・保土ヶ谷駅より徒歩2分、相鉄線・天王町駅から徒歩8分というアクセス抜群の立地に2016年11月に開業したばかりの「ほどがや脳神経外科クリニック」は、脳卒中、認知症、頭痛などの外来をはじめ、脳のあらゆる悩みや不安を解決する脳のかかりつけ医として早くも注目を集めている。院長の日暮（ひぐらし）雅一先生は、脳神経外科のエキスパート。横浜市立大学病院や関連基幹施設、横浜サイバーナイフセンターにおいて多くの脳神経外科治療に携わった経験から、「早期発見と予防が重要。より身近に専門医療を。」と開業を決意。「自分もまだまだ修行の身。患者さんの気持ちに寄り添い、不安を和らげることができれば」と朗らかに笑う日暮先生に、脳のかかりつけ医としての熱い思いをじっくり聞いた。（取材日2016年11月30日）

### 目次

- 身近なクリニックで大病院並みの診療を
- 正しい診断と適切な治療で、患者の長年の悩みを解決
- めざすは“脳のコンシェルジュ”としての道しるべ

### 身近なクリニックで大病院並みの診療を

脳神経外科のエキスパートとして一線で活躍されていた先生が開業に至ったいきさつについて教えてください。

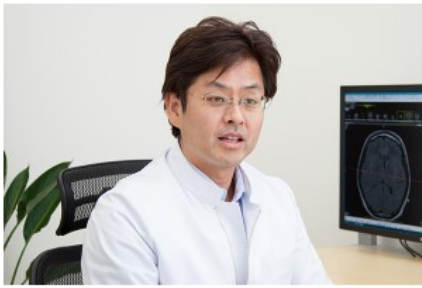
さんざん脳神経外科手術をしてきた私が言うのも変かもしれませんが、治るんだったら誰だって切られずに済んだ方がいいに決まっていますよね。医療や研究の方向性について考えた時、私は脳神経外科手術の「職人」になるよりも、地域に根差した医療で病気を早期発見して未然に防ぐ、頭痛や認知症を密にフォローする「管理人」をめざすことが、これからの自分の使命ではないかを感じるようになり、開業を決心しました。幸い、医師仲間からも「日暮は手術のことをわかっているから安心して術後管理を任せられる」と、今までの実績を信頼しての依頼もあるので、患者さんのためだけではなく、医師仲間のためにも手術研鑽を続けていかなくてはと思っています。



患者さんと接する時にどのようなことを心がけていますか。

書道の先生に「傾顔愛語」「傾聴共感」と書いてもらってスタッフの心構えとして院内に飾ろうと思っています。どんな時でも、どんな患者さんに対してでもにこにこ穏やかに接すること、患者さんの話にしっかり耳を傾け、共感する姿勢は医療や介護の世界ではもちろん、人としてとても大切なことです。どんなにすぐれた技術・知識があったとしても、傾聴する心がなければ、患者さんもしっくりいきません。当院では先端の医療設備を整え、専門の医師による高度な医療を提供する脳のかかりつけ医として地域に貢献できればと思っていますが、「はじめに心ありき」という気持ちでいつでも親身になって患者さんに寄り添っていきたいですね。

## 早くもMRIの予約がかなり入っているそうですね。



開院から1ヵ月足らずなのですが、おかげさまで午前中だけでも10件ほどMRI診療を行うことも多く、たいへん好評をいただいています。当院のMRIは大病院と同じレベルのもので、頭痛やめまいなどの脳神経症状がある方には、保険診療で迅速に検査し、当日中に正確な診断結果をお伝えしています。高精細MRIと脳の専門家としての知識は、良質な脳神経診療を提供する両輪です。脳神経疾患は最悪の場合、命を落としたり、寝たきりになってしまうなど重い後遺症を残すこ

とが多いため、早期発見と予防が何よりも大切です。15～30分ほどの検査で膨大な情報が得られるだけでなく、血管や脳の小さな変化も見逃しません。脳神経疾患に関するさまざまな疑問にお答えし、必要があれば大学病院など専門機関や、周囲の他科クリニックと相談をします。頭痛やめまい、しびれなど気になる症状がある方は、どんな些細なことでも気軽にご相談ください。

## 正しい診断と適切な治療で、患者の長年の悩みを解決

### 先生は、認知症ケアの専門士でもあるそうですね。



私の学位研究は、アルツハイマー型認知症の病因として注目されている微小管重合蛋白質に関する研究でした。そのころから、脳神経科学の研究を行う傍ら、グループホームなどの在宅医療も非常勤でお手伝いする機会も増え、非薬物療法や社会資源の活用的重要性を認識し、ケア専門士を取得しました。現在、認知症は進行を遅らせる薬が治療の中心になっていますが、実際に改善がみられるケースは1/3程度だということをご存じでしょうか。ただ、周囲の適切な関わり方や、

リハビリ・社交・運動機会を増やすと、精神症状が減ってきてあたかも認知症が改善しているのではないかと実感することもあります。患者さんだけでなく、それを支えるご家族の心のケアも視野に入れながら介護相談から在宅医療まで、包括的にサポートしています。

### 先生のおかげで長年の頭痛から解放されたと喜ぶ患者も多いと聞きました。

頭痛の外来を受診されるのは、30～50代の女性とお子さんの患者さんが多いですね。小学生くらいでも片頭痛はあります。スマホ自体による影響や、SNS・学校でのストレスの影響もありますが、遺伝も大きく関与します。頭痛を理由として仕事・学業・余暇が阻害される時間がある場合は、一度受診されることをお勧めします。頭痛で来られる患者さんの9割は薬の使い方をうまくすれば、ほぼ解決することができます。残る1割は他科との連携が必要な難治例であったり、くも膜下出血や低髄液圧症候群などの二次性頭痛です。昨今、大きな問題と感ずるのは、薬剤の使用過多による頭痛（薬物乱用頭痛）が多いことです。薬局で頭痛薬を箱買いされる方や、漫然と痛み止めを処方されているような方は、ぜひ頭痛の専門医師のところを受診していただきたいと思います。

### セカンドオピニオンを受けに遠方から訪れる患者も多いそうですね。

私は長年、横浜市立大学やその関連施設で脳動脈瘤や良性脳腫瘍をはじめとする脳神経外科の手術に携わってきたので、患者さんの状態についてはもちろん、手術現場のこともよくわかります。脳神経外科手術は、さまざまな分野があります。脳動脈瘤の得意な先生もいれば、脳腫瘍の得意な先生もいます。さらに脳腫瘍の手術の中でも、グリオーマ（神経膠腫）が得意な先生もいれば、下垂体が得意な先生もいます。患者さんの疾患ごとに各領域で私が安心しておすすめできる先生をご紹介します。「他院で手術を勧められたが本当に必要なのか」という方や、「自分が受ける手術のエキスパートの意見も聞きたいので紹介してほしい」という方が、しばしば相談に来られています。



## めざすは“脳のコンシェルジュ”としての道しるべ

### | 大変お忙しい毎日だと思いますが、休日はどのように過ごしてリフレッシュされているのでしょうか。



体を動かすことが好きだったので、学生時代はラグビーとアルペンスキーをやっていましたが、今はさすがに冬はスキー、夏はダイビングを楽しむ程度ですね。週に2回は近所で、サーキットトレーニングや水泳をしています。患者さんに指導するからには、まずは実践しなくてはなりませんね（笑）。趣味で一番長く続けているのはジャズピアノ。医師仲間とバンドを組んで時々ライブをやったりしています。思いに任せて自由に演奏したり、仲間とのセッションは本当に楽しいですね。普段とまったく違う脳を使うので、かなりリフレッシュできますよ。

### | 印象に残っている患者のエピソードを教えてください。

脳動静脈奇形という疾患で、脳内出血を起こして運び込まれたお子さんがいました。生死に関わるだけでなく、助かったとしても後遺症の残る確率の高い手術でしたが、何の後遺症もなく元気に退院することができました。その後も折に触れてお礼とともに順調に成長している様子を知らせてくれたので、将来あるお子さんを救って本当によかったとうれしかったですね。逆に後床突起というところの髄膜腫で、腫瘍は全摘出でき、麻酔からの覚醒もよかったのに、その後意識障害となった方もいます。高齢の患者さんで再手術やICU管理など手を尽くしたのですが、結果的に生きて帰宅することはかなわず。しかし、ご家族からはお礼を言われました。医療というのは結果だけがすべてではなく、最終的に患者さんやご家族がどのように受け止めたかが大切なのだということを学ばせていただきました。

### | 最後に読者にメッセージをお願いします。

当院は、近隣のクリニックと連携しながら身近な脳のかかりつけ医として脳卒中、認知症、頭痛の専門外来はもちろん、脳に関するあらゆる疑問や悩みを解決するお手伝いをいたします。日本脳神経外科学会脳神経外科専門医である院長が「脳のコンシェルジュ」として対応しながら、ご本人・ご家族の相談も幅広く承ります。気になる症状のある方はもちろん、治療法や手術の際の病院選びや術後のケアまでどうぞお気軽にご相談ください。

